

組織

会長	畠山 純	(鳥海小学校)		
副会長	菊地 邦彦	(西目小学校)		
事務局	山下 奈知	(本荘東中学校)	宮田 幸江	(尾崎小学校)
研究部長	関口 琢也	(金浦小学校)		
会計	須田 秀二	(仁賀保中学校)		

主な事業

令和3年度造形部総会（紙面）5/10

造形部研修会

12/3

本荘由利図工・美術の学び展 1/22～1/24

研究会の記録

1. はじめに

各校の教科研究や地区の研究会等で造形部員それぞれが研鑽を積み、指導法の研究や児童生徒の表現がどうあるべきかを考察すること、また、研究部会・本荘由利図工・美術の学び展・県児童生徒美術展など、様々な形で積極的に研修することを当会の具体的な目標とした。

特に、本荘由利図工・美術の学び展は各校の造形活動の取り組みを紹介し合う機会であり、より幅広い意味での情報交換の場となっている。展覧会名を一新し、名札に作者の思いを入れて掲示するようにした。また、以前のように奨励賞の選出はせず、「豊かな学び」というみてもらいたい表現の選出を通して、子どもの表現の見方や造形活動の在り方について研修する活動の意義は大きい。

2. 各事業の成果

(1) 造形部研修会(12月3日)

由利本荘市市民交流学習センター多目的ホールを会場に、秋田県児童生徒美術展に出品する本荘由利の作品を選出する公開地区審査会を行った。平成26年度から立体作品の審査も行っているが、各校の出品数を事前に報告してもらうことで審査時間を短縮することができた。また、秋田県児童生徒美術展は審査のみで展示は行われないことから、同日搬入搬出となった。各校の協力により審査後にスムーズに作品返却ができた。

今年度も地区審査の中で、話題作を選出することになり、参加者全員で付箋紙を使って協議ができた。造形部員にとっては、児童生徒の作品の傾向・よさ・課題について話し合う有意義な研修の場となり、今後の授業に役立つ多くの情報を得ることができたはずである。

(2) 本荘由利図工・美術の学び展(1月22日～1月24日)

由利本荘市文化交流館「カダーレ」で開催した。テーマである「あっ、いいこと考えた」を反映した個性豊かな表現が多く見られた。昨年同様、立体作品の充実には目を見張るものがあった。

出品作品の中から造形部が目指す表現を「豊かな学び」として選出した。各小中学校の教職員及び、造形部員の熱心な取り組みと各校の協力で、運営面・作品の内容ともにより充実した美術展となった。

カダーレを会場として実施するのは10回目ということで、3日間で1000名弱の来場があり、多くの方々に見ていただけた。

来年度も本荘由利図工・美術の学び展が新学習指導要領の趣旨に則った研修の場となるように協議を重ねていき、具体的な取組を各校に発信していく予定である。